

草のささやき 土のかほり

ヴァイオリンとギターの夕暮れ

東 彩子・荘村清志

～置賜文化ホール能舞台にて～

2024.11月30日〔土〕

開場 15:30 開演 16:00

会場 伝国の杜 置賜文化ホール

米沢市上杉博物館

「椿貞雄と草土社の画家たち」展に寄せて

プログラム

ルクレール : サラバンド

バッハ : シチリアーノ

バッハ : ラメント

ハイドン : アンダンテ

シューベルト : アルペッジョーネ



ヴァイオリニスト
東 彩子



ギタリスト
荘村 清志

(c)Hiromichi NOZAWA

チケット：全席自由 2500円 ※伝国の杜ファンクラブ割引（1人2枚まで） ※小学生以上の方が対象です。

発売日：2024年9月4日（水）9:00～

取扱い・お問合せ：伝国の杜 0238-26-8001/0238-26-2660

主催：伝国の杜 米沢市上杉博物館 後援：NCV(株) ニューメディア、山形新聞・山形放送



伝国の杜 米沢市上杉博物館

〒992-0052 山形県米沢市丸の内1-2-1
TEL0238-26-8001 FAX 0238-26-2660

草のささやき 土のかほり

ヴァイオリンとギターの夕暮れ

東 彩子・荘村清志

～置賜文化ホール能舞台にて～

伝国の杜 山形県置賜文化ホールの能舞台をステージに、椿貞雄の孫であるヴァイオリニスト 東彩子とクラシックギタリスト 荘村清志の初めてのデュオコンサートです。東氏の孫ならではの祖父・椿貞雄にまつわるアートークが演奏会と展覧会を紡いでいきます。

能楽堂を舞台に演奏される室内楽の名品を、新たな響きでお楽しみいただけます。企画展「椿貞雄と草土社の画家たち」展をさらに深く体感してください。

Violin

東 彩子 Saiko AZUMA

- 桐朋学園音楽科にて故斎藤秀雄氏に師事
- イタリアにてR・ブレンゴラ氏に師事
- 1972年～ 室内楽の活動を東京、広島、大阪、福岡にて始める
- 1975年、九州交響楽団とコンチェルトを共演
- 1976年、福岡にてリサイタル
- 1977年～ ヴァイオリンとピアノの為のDUOシリーズを東京他各地にて開催。2019年まで40回続く
- 1979年～ イタリアを中心にフランス、ドイツなどヨーロッパに活動の場を広げ、DUOシリーズのプログラムも各地で演奏
- 1981年 イタリア、キジアーナ音楽院のディプロマ・オノーレ受賞
- 1984年 斎藤秀雄メモリアルコンサート(現サイトウキネンオーケストラ)参加
- 1984年～ 美術、文学、写真、晩餐会などの他の分野とのコラボレーションによるコンサートの依頼を受け出演、また多数の公演を自ら企画
- 1995年～ ピアニストの藤井一興氏とコンビを組む
- 同年～ 沖縄のホール企画としてもDUOシリーズが開催される
- 1996年 トルコ、ギリシャに招かれ国際交流コンサート
- 2000年～ 弟子たちのコンサートを多数企画、共演多数
- 2004年 DUOシリーズ第30回記念としてCDをリリース
- 2008、2016年 米沢市上杉博物館に招かれ企画展に寄せるリサイタル
- 2017年 宮城県美術館に招かれ企画展に寄せるコンサート
- 2020年 船橋市に招かれ市民ギャラリーの企画展に寄せるコンサート、市民文化創造館にて
- 2023年 東彩子・藤井一興DUOコンサート番外編「そして バッハを」
バッハのヴァイオリンとチェンバロの為のソナタを二夜にわたって全曲演奏

Gitter

荘村清志 Kiyoshi Shomura

9歳よりギターを始める。1963年に巨匠イエベスに認められ、翌年スペインで師事。69年の日本デビューで、「テクニック、音楽性ともに第一人者」との高い評価を得た。71年には北米で28に及ぶ公演を行い、国際的評価を不動のものにした。74年にはNHK教育テレビ「ギターを弾こう」に、2007年にもNHK教育テレビ「趣味悠々」にそれぞれギター講師として登場し、日本ギター界の第一人者としての存在を強く印象づけた。08年ビルバオ交響楽団の定期演奏会に出演。同団とは《ランフェス協奏曲》を録音、09年にCDをリリースした。15年にはイ・ムジチ合奏団と共演、録音も行った。

2017年からギターの様々な可能性を追求する「荘村清志スペシャル・プロジェクト」(全4回)に取り組み、さだまさし、coba、古澤巖、錦織健らと共演し、ジャンルの垣根を越えたコラボレーションが話題となる。最終回では、cobaに委嘱したギター協奏曲も演奏し、注目を集めた。

2020年、朝日新聞の連載「人生の贈りもの」をまとめた書籍「弾いて飲んで酔いしれて ギターとともに50年」(吉田純子編著)を出版。22年にはcoba編曲による世界のポップス名曲選「ゴッドファーザー～愛のテーマ」をリリース。

現代のギター作品を意欲的に取り上げるだけでなく、日本人作曲家に多数の作品を委嘱、初演するなど、ギターのレパートリー拡大にも大きく貢献している。特に武満徹には74年に「フォリオス」、93年に「エキノクス」を委嘱、77年荘村のために編曲された「ギターのための12の歌」を初演・録音、96年には「森のなかで」を全曲初演している。

現在、東京音楽大学特任教授。

2024年はデビュー55周年＆喜寿を迎える。

「東彩子・荘村清志 ヴァイオリンとギターの夕暮れ」のチケットか半券のご提示で以下の企画展が無料でご覧いただけます。(会期中1回に限ります。)

米沢市上杉博物館

企画展

椿貞雄と草土社の画家たち

会 期:11月23日(土・祝)～令和7年1月13日(月・祝)
休館日:11月27日(水)、12月以降毎週月曜日(祝日の場合は翌日)、
年末年始(12月27日～1月1日)
料 金:一般590(470)円 高大生390(310)円 小中生240円(190円)

※()内は20名以上の団体

開館時間:9時～17時(最終入館は16時30分)



「腕鎖を持つる自画像」 椿貞雄
1917年 油彩・キャンパス
東京国立近代美術館蔵



「壺の上になりんごが載って在る」 岸田劉生
1916年 油彩・板
東京国立近代美術館蔵

米沢出身の椿貞雄は、岸田劉生との出会いにより画家としての決意を固め、その後は共に写真の道歩みます。1915年(大正4)、椿は岸田劉生、清宮彬・中川一政・横堀角次郎らと共に美術団体、「草土社」を結成し、9回にわたり展覧会を開催しました。精神的には文芸雑誌『白樺(しらかば)』(1910年創刊)の人道主義と密接な関係にあり、草土社風といわれた暗い色調と克明な細密描写は、同時代の青年画家たちに大きな影響を与えました。本展では、「草土社」の主要メンバーとして情熱をたぎらせていた椿貞雄の活躍や、椿と岸田劉生をめぐる「草土社」の画家たちの関わりと彼らの活動が大正期の美術にどのような影響を及ぼしたのかを紹介いたします。

アクセス■JR米沢駅から2km(上杉神社隣接)

- 市民バス循環右回り・学園都市線「上杉神社前」下車
- 山形交通バス白布小野川線「上杉神社前」下車
- 東北中央自動車道米沢中央ICから4km

米沢市上杉博物館

〒992-0052 山形県米沢市丸の内1-2-1
TEL.0238-26-8001 FAX.0238-26-2660

https://www.denkoku-no-mori.yonezawa.yamagata.jp

YouTube 米沢市上杉博物館

